



オリジナルバージョン

セッション7 自己評価クイズ

選択問題（合計 10 問）を使用して、セッションで学んだ「安全基地モデル」について確認します。

1. 養育者との親しみのある長期的なつながりと、仲間と養育者で構成された集団への帰属意識は、
 - A. 子どもにとって基本的ニーズである
 - B. 養育環境としてそれを持つことに価値はあるものの、不可欠なものではない
 - C. 所属感に家族にのみ持つものであるため、施設内でそれを模倣することは無意味である
 - D. 愛着障がいの原因となる
2. 子どもたちに一貫性を与えるために施設内での仕事を整理するとは、
 - A. 一人の養育者が四六時中、同じ子どもを継続的に接することができるようにするという意味である
 - B. 一定の養育者が一定グループの子どもたちと、日中の長い時間を過ごすことができるようにするという意味である
 - C. 子どもたちに他の子どもたち（常に同じ子どもたち）とベッドを共有させて、お互いに愛着を感じさせるという意味である
 - D. 子どもたちが施設内の同じ場所で 1 日の大半を過ごせるようにするという意味である
3. 家庭外に置かれた子どもたちはみな、里親に委託されるべきであるという結論は正しいといえるが、完全ではない。その理由は、
 - A. 病院モデルの施設は実際に、子どもの発達に改善をもたらすため
 - B. 里親家庭で育つ子どもたちは、施設で育つ子どもたちよりも、愛着問題が深刻化するため
 - C. 里子を受け入れられる里親家庭すべての養育基準を管理することは困難であるため
 - D. 子どもたちは里親家庭に行くことを拒むことがよくあるため
4. 施設内で回復に向かう可能性が高い脳障がいまたは愛着の問題を持つ子どもたちであっても、大部分の子どもたちは里親家庭の方がより健やかに育つ。その理由は、
 - A. 子どもたちが容易に溶け込める里親家庭を探すことが容易であるため
 - B. 里親は、里子の最善の養育のために、里子の実親とよく連携するため
 - C. 里子を養育する資格を有する里親がたくさんいるため
 - D. 子どもが 1~2 名の安定した養育者を持つことができ、集団（家族）の一員であると実感できるため
5. 子どもの発達についての秘訣は、
 - A. 養育者によってもたらされる健全な愛着形成が重要であるかどうかにかかわらず、子どもたちを施設よりも里親家庭で育てることである
 - B. 養育者によってもたらされる健全な愛着形成が重要であるかどうかにかかわらず、子どもたちを里親家



庭よりも施設で成長させることである

- C. 施設であっても、里親家庭であっても、子どもたちの基礎的生活を満たすことに必要な日課をこなすことである
- D. 施設であっても、里親家庭であっても、子どもたちの健全な愛着を促すつながりを作ることである

6. 里親委託の長所は、

- A. 個別のつながりを形成できること
- B. 長期的かつ安定した養育を提供できること
- C. 重度の身体障がいを持つ子どもたちを管理できること
- D. 社会面での深刻な問題を持つ子どもたちを管理できること

7. 少数かつ特定の養育者との安定したつながりが、子どもたちの健全な愛着形成において特に重要なのは、

- A. 生後6ヵ月未満の乳幼児
- B. 3歳未満の乳幼児
- C. 2歳以上の子どもたち
- D. 小学校へあがる前の子どもたち

8. 「親代わり」である養育者との安定したつながりを持つことと同様に、仲間とのつながりが重要になるのは、

- A. 生後6ヵ月未満の乳幼児
- B. 3歳未満の乳幼児
- C. 2歳以上の子どもたち
- D. 小学校へあがる前の子どもたち

9. 施設に暮らし続ける子どもたち（の一部）を待ち構える避けがたい現実は、

- A. 発達への悪影響が常に付きまとうということである
- B. 将来的に、対処しなければならぬ問題が出てくるということである
- C. できる限り早く、なくさなければならぬということである
- D. 子どもの発達に前向きな影響を与えるということである

10. 施設におけるシフト制の勤務体制とスタッフの（頻繁な）離職は、

- A. 子どもたちの健全な愛着形成を困難にするというデメリットがある
- B. 新たな人材と戦力を継続的に得られるというメリットがある
- C. 施設内のチームワークが乱れるというデメリットがある
- D. 子どもたちの刺激になるというメリットがある